

巻頭言

リオ・オリンピック・パラリンピックの年に

筑波大学理療科教員養成施設長
宮本俊和

平成28年は、本施設にとって大きな出来事が三つありました。

一つ目は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催されたことです。筑波大学からは、オリンピックには10名出場し、永瀬貴規選手が柔道81kg級で銅メダルを獲得しました。パラリンピックには10名出場し、廣瀬誠選手が柔道60kg級で銀メダル、岡村正広選手がマラソンで銅メダル、木村敬一選手が競泳で銀メダル2個と銅メダル2個を獲得しました。

メダルを獲得した廣瀬誠選手と岡村正広選手は本施設の卒業生で現役の理療科教員です。心から祝福を贈ります。また、本施設からはスポーツ庁から委託された研究プロジェクトで3名が現地で視覚障害者柔道選手のサポートをしてきました。

二つ目は、5年に一度行っている本施設の教員養成機関の指定申請を行ったことです。文部科学省に、授業を担当する全教員の学歴・教育歴・研究業績などを提出して審査を受けました。担当する授業科目に関連する論文が審査され、該当する論文がない場合は教員として認定されない場合があります。研究業績には、学会誌に限らず本施設で発行する紀要なども含まれます。

三つ目は、「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師学校養成施設カリキュラム」が検討されたことです。改正の目的は、国民の信頼と期待に応える質の高いあはき師を養成するため、カリキュラムの改善、臨床実習の在り方、専任教員の要件などの認定規則の改正を含めた見直しについて幅広く検討することでした。盲学校理療科においては、学習指導要領が改正されると教える内容も変わってきます。本施設においても指定申請にともないシラバスを見直し授業内容を新たにしました。

本紀要は、臨床研究、基礎研究、理療教育研究など幅広い分野で募集していますので、投稿をお待ちしております。